

トルコ高校生招へいについて

能登エマージェンシー・リリーフ・クラブ (ERC) 実施概要

～能登から世界へ：震災を越え、サイエンスで未来を拓く～

1. 輪島高校が果たす「主導的役割」

【支援を受ける側から、世界と共に未来を創る「当事者」へ】



ホスト校としての主体性

輪島高校が主体となり、トルコの生徒・教員を招待します。復興の現状を生徒自ら発信する予定です。



「さくらサイエンスプログラム」

日本の先端技術を海外へ発信する機会。そして、日本への関心を深めてもらう予定です。



先端教育のモデルの実践

MIT連携のAIアプリ開発や「おさんぽメガネ」など、文理融合型の教育実践を行います。



教育ネットワークの構築

飯田高校、青楓館高等学院、OECD、東京学芸大学を繋ぎ今後も「関係人口」を広げたいと考えています。

2. 今後の展望: 持続的な教育インフラへ

【単発の交流に終わらせない「世界から選ばれる能登」へ】



インバウンド受け入れ強化

将来的な「教育移住・留学」の土台を構築し、世界から生徒が集まる場へ。



知見のグローバル・スタンダード化

能登×トルコの復興知見を「サイエンス教育」として体系化し世界へ発信します。



グローバル人材の輩出

OECDのバックアップを受け、社会課題を技術で解決できる人材を能登から継続的に育成します。



OECD共同研究の恒久的拠点化

能登を「教育実証の生きた実験場(リビングラボ)」として継続活用したいと考えています。

3. 今後の展望

【「教育の石川」を世界へ発信する好機】



「創造的復興」の象徴

復興計画の「教育・人づくり」における目玉施策としての位置づけに。



石川ブランドのグローバル発信

文科省、外務省、トルコ大使館、OECDとの連携による国際的な視点を高めます。

能登の高校生たちの挑戦を、今後も支援していきたいと考えています。